

シンガポール・スプリングセミナーでの学び

はじめに

私が留学をしたと思った理由は、2つあります。1つ目は、留学への憧れがあったからです。2つ目は、英語のスピーキング能力を向上させたいと思ったからです。

私は、洋楽を聞くことや英語を勉強することが好きで、いつか海外へ行きたいと思っていました。ただ、部活動に所属していることや経済面の負担から、長期留学は難しいと考えていました。そのため、英語を公用語としている国に留学でき、部活動との兼ね合いが可能である、このセミナーに参加しようと思いました。

1. 留学内容

・留学期間:2019年2月23日(土)～3月5日(火)11日間

・日程詳細

2月23日(土) 羽田空港からシンガポールへ 約7時間40分

2月24日(日) 市内観光

2月25日(月)

午前: 英語研修(プレイスメントテストにより2クラスに分けられる)

～ 午後: 企業(オムロン、京セラ、三井物産、リコー)

研究所(ISEAS(東南アジア研究所)) 訪問

大学訪問(シンガポール国立大学)

3月1日(金)

3月2日(土)、3日(日) 自由行動

3月4日(月) 英語研修:ファイナルプレゼンテーション

～

3月5日(火)シンガポールから羽田空港へ

・英語研修

初日にテストを行い、レベル別に分けられたクラスで、英語研修を受講します。文法や単語の学習というより、積極的に英語で対話することがベースの授業でした。また、ファイナルプレゼンテーションに向けた、コミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルを英語で学びました。

・企業訪問

さまざまな大企業を訪問し、仕事のやりがいや学生に求められる素養等をお聞きしました。企業説明から質問、すべて英語で行う企業もありました。また、シンガポール国立大学では、現地学生とともに日本の疑問や課題について議論しました。現地の大学生はトリリンガルがほとんどで、その博識や大学の規模、すべてにおいてアジアトップレベルであることを肌で感じました。

2. シンガポールについて

シンガポールの魅力

はじめ、シンガポールといえば、マーライオンというイメージ程度しかできていませんでした。ただ、実際に行ってみると、日本よりも近代化が進んでいて、近未来な国であると感じました。また、シンガポールは一年中夏のような気候のため、毎日晴れていて、気候において新潟とは対象的であるといえます。さらに、観光名所も多数あり、夜景も綺麗でご飯も美味しいため、不便に感じる場所は、水の硬度が高く、シャワーをする度に髪がきしむこと以外にはありませんでした。

シンガポールでの気づき

私は、留学以前、英語ができれば海外はどこでも通用すると思っていました。しかし、シンガポールへ留学してみると、英語では注文が通じないことや道を尋ねても英語が分からないと断られてしまったことがありました。それは、シンガポールの国民性が大きく関わっていました。シンガポールは、多民族で構成された国であることから、英語の他に、マレー語、中国語、タミル語が公用語として用いられています。そのため、英語＝公用語という概念はシンガポールの国民性を度外視した考え方であることに気づきました。

また、英語にはアメリカ訛りやイギリス訛りがあることはよく知られていますが、シンガポールで用いられている英語は、どちらにも当てはまらない独特の発音の仕方でした。それゆえに、初めは聞き取ることが難しく、英語研修においても困難を極めました。しかし、2日後にはその変化にも慣れ、聞き取ることができるようになりました。

3. 留学を通して伝えたいこと

シンガポール・スプリングセミナーに参加し、シンガポールでしか感じるこのできない経験が数多くあり、それによって自己成長することができたと思っています。

まず、自身の英語での会話力はもちろんのこと、傾聴力や発信力の向上を感じました。英語が通じないからこそ、どうすればいいのか自ら考え、相手の言葉や表情から意図を汲み取ろうと尽力しました。また、企業訪問やシンガポール大学での交流、プレゼンテーションのカリキュラムがあったからこそ、積極的に自分の意見を発表することが、苦手から得意に変わりました。

さらに、シンガポールという多文化共生が当たり前の場所で過ごすことにより、多文化を理解し、互いに違いを認め合い、尊重する社会のあたたかさを感じられました。この経験より、誰もが等しく社会保障を受けられる仕組みをつくりたいという目標ができました。これは、私の就職活動の軸となっています。

このように、11日間という短い期間ではありますが、その中で日々課題と成長を感じられる毎日でした。留学するための綺麗な理由がなくても、興味や好奇心を心に留めておくより、まず行動してみることで、自分の考え方やコミュニティが変わると思います。私は、留学したいという意欲はあったものの、留学初日、知り合いや友達は一人もいませんでした。しかし、留学後には大人になっても大切にしたい友達が多数でき、たまに留学仲間飲み会をしたりしています。大好きな友人たちと留学をしなければ繋がりを持つことはなかったと考えると、この機会に感謝してもしきれません。

現在、就職活動をしていて、行動は強いメッセージになると実感しています。少しでも留学に興味があるなら、留学交流推進課で話を聞いてみる、先輩や友達に相談してみるなど、自ら情報収集をしてみてください。大学生活は最後の学生時代です。「留学したい」という思いを諦めず、ぜひチャレンジしてほしいと思います。そして、この体験記が多くの人の刺激になれば嬉しく思います。最後までお読みいただきありがとうございます。

